

ごあいさつ



本市は、相模川をはじめとした流麗な河川と、雄大にそびえ立つ丹沢・大山などの美しい山々に囲まれた自然豊かなまちです。

市内の自然には、動植物を中心に多様な生物が生息しており、その生物の様々な活動がもたらす恩恵によって、私たちは豊かな生活を送ることができています。

しかし、近年は生物の生息域において、人為的な乱獲や外来生物の移入・定着が見られること、自然に対する人の手入れが不足し里地里山や森林の荒廃が進みつつあること、地球温暖化等の気候変動により生物の生息・生育可能な環境が減少していることなど、今まで維持されてきた生態系が失われ始めています。

こうした中、本市では豊かな自然やその恩恵を将来に受け継いでいくため、平成 25 年 3 月に「生物多様性あつぎ戦略」を策定しました。「未来へつなげよう 自然のめぐみと暮らすまち あつぎ」を目指す将来像として、市民の皆さま、団体、事業者、行政が一体となって、自然環境と共生するまちづくりに取り組んでいます。

令和 3 年 3 月には、本市の希少種や生物目録を取りまとめた「厚木市版レッドデータブック」の完成も予定しており、生物多様性に関する普及啓発や保全に向けて、より一層の効果をもたらすことが期待されます。

本市の生物多様性の確保に向けた取組を推進していくためには、より多くの市民の方の御理解と御協力が必要になります。20 回目の節目を迎えました「さがみ自然フォーラム」が、皆さまにとって生物多様性への理解を深める一助となれば幸いです。

コロナ禍でのフォーラム実施には多くの困難がありましたが、共同主催者である特定非営利活動法人神奈川県自然保護協会をはじめ、御後援をいただいた神奈川県、神奈川県教育委員会、厚木市教育委員会、国連生物多様性の 10 年日本委員会、(公財)日本自然保護協会、(公財)かながわトラストみどり財団、丹沢大山自然再生委員会、桂川・相模川流域協議会、また、出展者の皆さまの御尽力により本日を迎えることができました。本フォーラムに関わっていただいた全ての方に心から感謝を申し上げ、あいさつとさせていただきます。

令和 3 年 2 月吉日

厚木市長 小林 常良

ごあいさつ



さがみ自然フォーラムは、自然を大切に思う仲間たちの交流の場にとどまらず、自然を大切にすることが人々の幸福につながると信じて多くの人たちに広める場として続けさせていただいています。

毎年多くの方々にご来場いただいて、自然環境の大切さを訴える私たちの思いが伝わっていることを感じさせていただいていることは大変ありがたく思うところです。

しかし、私たちを取り巻く自然環境悪化の状況は年々深刻の度を増しています。

地球全体の年平均気温は高止まりし更に上昇傾向を見せています。ここ数年日本を襲う台風や大雨、海外では乾燥による大規模森林火災など、地球温暖化による気候危機として危惧されたとおり現実のものになりつつあります。

今、世界中で猛威を振るい続ける新型コロナウイルスだけでなく、人の生存を脅かす新たな感染症は、野生動物と人との接触から拡散しています。

温暖化の問題も、野生動物との距離の問題も、私たちは自然に関心を深め理解し、そこから子孫まで幸せになれる最適な生活様式を導き出すことによって解決できます。

それは富や快樂を追及することを幸せとする世界とは違う世界かも知れませんが、私たち自然保護に関わる者に限らない、全ての人々普遍の願いとなることを望んでいます。

このような思いを、このフォーラムに集う皆様と共有できれば幸いと存じます。

さがみ自然フォーラム 20 年目を迎える本年は、企画展として「20 年の足跡とこれから」～さがみ自然フォーラムの歴史を振り返る～を取り上げました。

この 20 年間は、自然に対する見方、考え方が大きく変遷した時代でした。めずらしい生きものだから保護するという考え方は、過去のものとなり生物多様性を保つことが人々の生活のためにも大事という考えが徐々に浸透してきました。

また、2011 年の東日本大震災とそれに起因する福島原発事故では自然と人との関係を深く考える機会ともなりました。

このような中、変遷してきたこのフォーラムから、神奈川の自然の将来に思いを巡らせていただける機会になれば幸いです。

終わりに、この「さがみ自然フォーラム」が盛大に開催できますことは、ひとえにいち早く「生物多様性あつぎ戦略」を策定されました厚木市に共催していただけたからのごことで、深くお礼申し上げます。

また、今回開催にあたって後援をしてくださいました、関係各位に心から感謝申し上げます。

2021 年 2 月吉日

特定非営利活動法人神奈川県自然保護協会
理事長 藤崎 英輔

